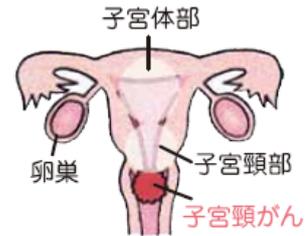


全ての女性に知って欲しい 子宮頸がんとう子宮頸がん検診

「子宮頸がん」って、どんな病気？

子宮がんには「**子宮頸がん**」と「**子宮体がん**」の二種類があります。「**子宮頸がん**」は子宮の入り口(頸部)に、「**子宮体がん**」は子宮の奥(体部)にでき、原因から症状まで異なります。



最近、20～30歳代前半で急増しています!

	子宮頸がん	子宮体がん
できる場所	子宮頸部(子宮の入り口)	子宮体部(子宮の奥)
主な原因	性行為によるHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染	女性ホルモンの影響
発症しやすい年代	30～50歳代	50～60歳代
初期症状	ほとんどない	不正出血がみられる
予防法	検診・ワクチン	検診・生理不順の予防

こわいのは、初期症状がないところ

「**子宮頸がん**」は、初期症状がほとんどないため、気が付いたときには子宮を取らなければならないほど、進行していることがあります。

初期 → ほとんど症状がない。性行為の際にまれに不正出血あり。

進行すると → ・性行為以外でも不正出血がみられる。
・ピンクや褐色のおりものが出る。

さらに進行すると → ・おりものが多くなる。
・おりものにおいがある。
・腰や下腹部の痛み。



「子宮頸がん検診」で早期発見が大切!

初期症状がないため、自分では気づきにくい「**子宮頸がん**」…。
でも、**がん検診**によって、がんが早期発見されれば、お腹を切らずに、子宮も取らない手術で完治し、妊娠・出産も可能です。
早期発見のためには、定期的に「**子宮頸がん検診**」を受けることが大切です。

「子宮がん検診」って、どんなことするの？

★対象年齢：20歳以上(2年に1回)

- 1 問診：問診票に初経年齢、月経の状態、自覚症状などを記入します。
- 2 診察：内診台にあがり、子宮頸部の状態を観察したり、子宮の大きさや形などを確認します。
- 3 細胞診：専用のブラシを用いて子宮頸部の細胞をこすって採取します。痛みは、ほとんどありません。
- 4 結果：採取した細胞の形などを顕微鏡で調べます。

異常なし

→ 今回の検査では異常ありませんでした。
今後も定期的に、検査を受けましょう!

要精密検査

→ さらに詳しい検査を必要とします。
できるだけ早く、婦人科を受診しましょう!



でも、大切なのは“自分の感覚”です!

がん検診の判定・診断が100%正しいわけではありません。がん検診で異常なしでも、自分にとって、いつもと違う症状(不正出血、生理不順など)が現れたら、なるべく早く医療機関を受診しましょう。

自分の健康を守れるのは、あなた自身です。

検診の活用法：**無料** クーポンを活用しよう!

20歳になられた方に子宮頸がん検診を無料で受けられるクーポン券が、住民票のある市町から送付されます。あなたにも届いているはず!? 早速確認しましょう!



他にも、こんながん検診があります。

子宮頸がん以外にも、「乳がん」「胃がん」「肺がん」「大腸がん」のがん検診があります。対象となる年齢になったら、定期的に受けましょう!

がん検診の種類	対象年齢	間隔
胃がん検診	50歳以上	2年に1回
肺がん検診	40歳以上	年1回
大腸がん検診		年1回
乳がん検診		2年に1回



20歳になったら、子宮がん検診
お得な「子宮頸がん無料クーポン券」を活用しよう!